

「香港中文大学サマースクール参加報告書」

京都大学 総合人間学部 4年 トン クイナン

本プログラムを終えて、大きくわけて三つのものを得る事ができたと振り返る。一つめは語学力、現地では授業で学ぶ中国語以外に、留学生同士ではおもに英語で会話している場合が多く、留学生たちとそれぞれの国の政治、文化について、十二分に議論をし、知見が多いに広がった。また、受験英語とは違う生の英語に触れる機会を得ることができたことは今後の自身のキャリアにとっては非常にプラスだったと思う。もちろん、中国語の授業も学ぶことがたくさんあった。授業で使うテキストが中国文化を忠実に表しており、たいへん面白い内容であった。自身の中国語も学ぶというより思い出すに近い感覚ではあるが、大きな進歩を得る事ができ、日常会話以上のレベルに到達したと自負している。今後も HSK の受験などとさらに勉強を進めていきたいと思う。二つめは、たくさんの人種の人とフィールドワークする際の引率力である。主に欧州の留学生と共に現地で活動していたのだが、中国語がすこし話せたこともあり、買い物や観光をする際には常に引率する立場にあった。国によって、行動の特徴が違い、また英語が通じないことも多々あったので、非常に困難に感じる時もあったが、物事をシンプルに、選択肢を減らすなどの工夫をして、上手に、また楽しく引率することが出来たかと思う。先ほども述べたが、国が違えば文化、価値観が全く違い、驚かされることはもちろん、心底興味深いと感じることが多く、違う価値観に立って見る事によって、改めて自分の持つ価値観に気づかされた。彼らと共に行動したことは、一生の思い出であり、最高の夏休みであったと自身が感じる一番の理由である。今後も国際交流をする機会と積極的に作って行きたいと思う。三つめは、香港での生活経験である。社会主義国の中の資本主義ということもあり、町中至る所に矛盾を感じる事が出来た。香港の生活の格差は自身が想像するより大きく、巨大な高層ビルに圧倒されることもあったが、汚い裏路地や貧民街に考えさせられることも多くあった。しかし、一つの街に複数の顔があることは非常に興味深く、将来的に暮らしたいと感じた。また、イギリス、中国、日本の文化を容れている点も随所に見られ、特に食文化の発達には感動を覚えた。以上振り返って、当初想像していた以上に、大きな成果を得ることができたと思う。誰よりも香港での生活、国際交流を楽しんでいたと感じており、非常に達成感を感じている。この経験を共有して行きたいと思うとともに、改めて留学の機会をいただけたことに深く感謝致します。